京都産業大学　教育支援研究開発センターニュース
CERADES News
セラデス　ニュース
むすんで、うみだす。
京都産業大学
KYOTO SANGYO UNIVERSITY
vol.21
Dec. 2021

教育の質保証に向けた 全学 FD/SD 研修会・ワークショップの 開催報告

教育支援研究開発センターは、本学の教育の質に関する取組の一環として、全学的な FD/SD を推進するための研修会・ワークショップを開催しています。

本号では、教学マネジメントの考えのもとに“教育の質保証”をテーマに開催した令和３年度第１回・第２回全学 FD/SD 研修会と、カリキュラムマップ作成に伴う第１回学部ワークショップについてご報告します。

教学マネジメント

- 大学がその教育目的を達成するために行う管理運営であり、大学の内部質保証の確立にも密接に関わる重要な営みである。
- その確立に当たっては、教育活動に用いることができる学内の資源（人員や施設等）や学生の時間は有限であるという視点や、学修者本位の教育の実現のためには大学の時間構造を「供給者目線」から「学修者目線」へ転換するという視点が特に重視される。

2020 年 1 月「教学マネジメント指針」概要より

Contents

p2 〈FD/SD活動の推進〉
令和3年度第１回全学FD/SD研修会開催

p3 〈FD/SD活動の推進〉
令和3年度第２回全学FD/SD研修会開催

p4 〈FD/SD活動の推進〉
カリキュラムマップ作成に伴う
第１回学部ワークショップ開催

CERADES Newsは、京都産業大学の特色ある教育・学習の実践事例を紹介することを目的とし、セラデススタッフが企画・取材・デザイン製作している刊行物です。
CERADES（セラデス）は、教育支援研究開発センターの英語名称Center for Research and Development for Educational Support の略称です。

教育のマネジメントと質保証

講師 川嶋 太津夫 氏（大阪大学 高等教育・入試研究開発センター長）

教学マネジメントが求められる背景とその動向

研修会のポイント

- 「教学マネジメント指針」解説
- 効果的な教育資源配分
- アセスメントに基づく教育の質保証

第１回研修会は、「教育のマネジメントと質保証」をテーマとして開催しました。本研修会は、“教育の質保証”について本学教職員が理解を深めることを目的として開催し、当日は 74 名の教職員が参加しました。

大阪大学高等教育・入試研究開発センター長の川嶋太津夫先生より、令和２年に出された「教学マネジメント指針」に関する話題を中心に、教学マネジメント指針の背景解説や、測定可能なアセスメント（達成評価）レベル設定等、教育の質保証の要点について講演いただきました。

参加した教職員の声

- 日々の授業準備や講義、そしてとりわけオンライン授業が増加し、課題の添削や評価に追われる中で、各々の担当する科目を、全学的なポリシーにどう位置付けるべきか、そしてそのためにどういった授業設計や運営をすべきかを考えるうえで、大変参考になった。一方で、全学的なマネジメントと、各教員や授業の「個性」「カラー」のようなものとはどのように両立させていけば良いのか、という新たな問いも生まれた。
- カリキュラムマップ等の構築を進めていく上で、その方向性を整理できたかと思う。また、人的資源の配分も考慮していくことは新しい認識となった。
- ３つのポリシーの作成方法など、本学の対応が川嶋先生のお話と合致していたことが分かり、安心した。また、自己点検・評価の仕組みが W スタンダードになることのリスクが明確になり、本学（部）の会議の在り方についても、新たな視点が得られた。

教育の質保証のための学修成果の評価

― カリキュラムマップ・カリキュラムツリーの作成・活用を中心に ―

講師 斎藤 有吾 氏（新潟大学 経営戦略本部 教育戦略統括室 准教授）

教学マネジメントの確立に向けた実質的な取組

研修会のポイント

- 学修成果の可視化および内部質保証
- アセスメントプランとカリキュラムポリシー
- 実質的な取組方法や組織体制

第２回研修会は、「教育の質保証のための学修成果の評価～カリキュラムマップ・カリキュラムツリーの作成・活用を中心に」をテーマとして開催しました。本研修会は、全学レベル・学部レベル・科目レベルでのアセスメントプラン・カリキュラムマップ策定について本学教職員が知識を得ることを目的として開催し、当日は 64名の教職員が参加しました。

新潟大学経営戦略本部教育戦略統括室の斎藤有吾先生より、カリキュラムマップやカリキュラムツリーの他大学における事例紹介や、学修成果の評価方法、ディプロマポリシー達成を測るための卒業研究等の集大成科目の評価等、実践的な内容を解説していただきました。

参加した教職員の声

- なぜ、カリキュラムマップを作らないといけないか、明確になったと思う。これまでわかっていなかったことが多くあり、それがとても大切なことであることも認識できた。
- DP をブレイクダウンして授業の身につく力につなげることの重要性を再認識した。評価についての体系的整理、卒業研究での DP 評価など、参考になる点が多かった。
- 「全学の DP」（を分解したもの）の設定が必要であることも確認できた。ある程度、京都産業大学としての「ひな型」をつくり、これをベースに学部版カリキュラムマップを作成していくという方向かと思う。
- DP の評価対象科目としての集大成科目についての問題。本学部では実質的には４年次演習での卒業研究となるが、カリキュラム上は必修単位としては３年ゼミまでとなっている。本学は学部問わず４年生の必修科目設定が少ないように思うので、この点をどうクリアするかが難しいと感じた。

カリキュラムマップ作成に伴う第１回学部ワークショップ開催

「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン」といった中教審答申等において、大学教育には学修者本位の教育への転換が求められています。本学でも「神山 STYLE 2030」で重視しているとおり、学修者本位の教育を進めており、実行に向けて学修成果の可視化を学内で検討していくため、本学の学修成果の可視化を進める取り組みとして、カリキュラムマップ策定のための全学的なワークショップを開催しました。第 1 回学部ワークショップでは、斎藤有吾先生（新潟大学 経営戦略本部 教育戦略統括室 准教授）にカリキュラムマップおよびアセスメントプラン策定について解説いただいたうえで、学部学科ごとの対面ワークにて、学部学科 DP と紐づいた「資質・能力」の素案策定について議論を進めていただきました。本ワークショップと 11 月開催の第 2 回学部ワークショップを経て、カリキュラムマップ完成を目指す流れとなります。

第１回学部ワークショップのポイント

- ◆ カリキュラムマップ・アセスメントプランの解説
- ◆ 学部学科の「資質・能力」素案策定のための実践ワーク

実 施 時 期

10 月 7 日～ 9 日、18 日

学部学科から寄せられた感想

- 学部の特徴とはいえ、全学共通の「資質・能力」について、学部 DP 間での重複が多いことに気づいた。実際の科目と AP に基づく測定可能性を考慮しながらより特徴的な項目を選択する必要があると感じた。
- 自学科の DP が実際のカリキュラムを必要十分に文章化できていないという印象を持った（本来であれば、「カリキュラムが DP を正しく落とし込んだものになっていない」と言うべきなのだろうが）。また、こうした教学の改善作業が（多数の教員や事務の皆様が多くの時間を割いて実施しているわけだが）、学生の為になる / 学生に実感して貰えるようにするところまで、しっかり意識することが重要なのかと思った。
- ワークショップに参加し共同作業を行うことでカリキュラムマップ作成の理解は多少深まった。しかし、まだ「やらされている感」が強いことは否めない。教員・事務職員にとって、本カリキュラムマップの作成が大学全体を良い方向に動かしているという実感があれば、やりがいも出てくると思う。

CERADES News Vol.21　2021年12月発行
編集／発行　京都産業大学教育支援研究開発センター
〒603-8555　京都市北区上賀茂本山　Tel：(075)705-1729
e-mail：kyoiku-shien-center@star.kyoto-su.ac.jp　URL：http://www.kyoto-su.ac.jp/about/cerades/index.html